

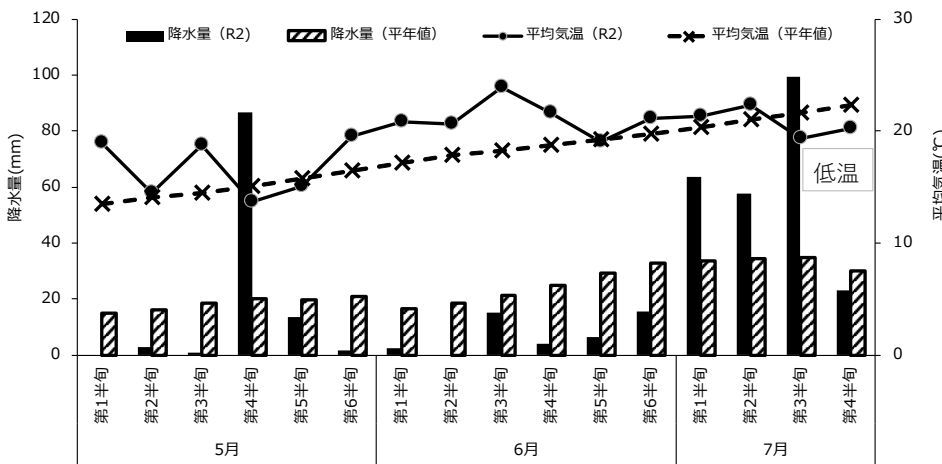
仙台稲作情報2020（第7号）

宮城県仙台農業改良普及センター TEL：022-275-8410 FAX：022-275-0296
<http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai> E-mail：sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

栽培管理のポイント

- ▷減数分裂期に入りました。追肥は、稲の葉色や生育ステージを確認して適切に実施しましょう。
- ▷いもち病の感染好適日が連続出現していますので、ほ場をよく確認し、早期発見、早期防除に努めましょう。
- ▷斑点米カメムシ類の薬剤防除は、2回防除を基本とします。

1 気象経過



【参考】

日照時間（仙台アメダス）

旬別	日照時間(時間)	
	日照時間	平年比
6月下旬	20.8	62%
7月上旬	15.3	44%
中旬	12.8	36%

2 管内の生育状況（7月20日の調査結果）

(1) 移植栽培

- ・草丈・茎数とも、一部のほ場を除き前年を上回る状況となっています。調査結果からは7月中旬の低温による生育の停滞は見られません。
- ・3 cm以上の幼穂長が確認され、「減数分裂期」に達したほ場があります。

品種	ほ場 (地域区分)	田植 月日	草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉数 (枚)			葉色 (GM値)			幼穂長 (mm)		
			本年	前年 比%	平年 比%	本年	前年 比%	平年 比%	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	仙台市宮城野区岡田 (仙台湾沿岸)	5/14	66.1	103	94	405	104	98	11.3	-0.2	-0.6	36.9	-5.8	-0.7	10	-1.9	-23.0
	大郷町鶴崎 (北部平坦)	5/21	72	113	101	650	126	132	10.7	-0.6	-1.3	38.4	1.2	3.8	5	-10.6	-57.1
	管内平均	5/15	69.8	103	-	453	90	-	13.1	0.6	-	39.8	-0.9	-	62.8	8.9	-
ササニシキ	仙台市若林区長喜城 (仙台湾沿岸)	5/4	79	120	107	540	129	128	12.5	0.0	0.3	37.6	-3.2	0.1	31.5	19.4	-27.2
	大和町鶴巣 (北部平坦)	5/9	69.3	102	-	577	88	-	11.7	0.2	-	37.7	-0.5	-	18.9	4.7	-
	管内平均		74.2	111		559	108		12.1	0.1		37.7	-1.9		25.2	12.1	
だて正夢	仙台市若林区三本塚 (仙台湾沿岸)	5/25	69.3	109	-	466	134	-	11.5	-1.2	-	37.8	-0.8	-	4.4	1.4	-
	大郷町土橋 (北部平坦)	5/16	73.2	105	99	456	111	114	11.1	-0.9	-0.9	38.0	-1.5	0.8	3.2	0.1	-35.6
	管内平均		71.3	107		461	123		11.3	-1.1		37.9	-1.2		3.8	-0.6	

※平年比差は、平成29年から令和元年の3力年平均

(2) 湛水直播栽培

葉数が前回調査より1枚増加して11.2枚となっており、生育は概ね良好です。幼穂長は1.7mmとなり、幼穂形成期に入りました。

表 7月20日の調査結果

品種	ほ場 (地帯区分)	播種 月日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (GM値)	幼穂長 (mm)
ササニシキ	大和町桧和田 (北部平坦)	5/3	76.5	529	11.2	41.1	1.7

※今年度から調査ほ場及び品種を変更したため、本年値のみとなり、前年値、平年値はありません。

3 地帯別生育ステージの予測

宮城県米づくり推進本部による地帯区分別の生育ステージの予測は以下のとおりです。

※幼穂形成期：幼穂長1～2mm，減数分裂期：幼穂長30～120mm

表 地帯別生育ステージの予測（7月3日現在）

<北部平坦部> 出穂期 8月2日頃予想（平年値：8月2日）				
地帯区分	田植時期 始期～終期	幼穂形成始期 始期～終期	減数分裂期 始期～終期	出穂期 始期～終期
北部平坦	5/2～5/19	7/2～7/11	7/12～7/21	7/31～8/7
南部平坦	5/3～5/19	7/2～7/10	7/12～7/20	7/31～8/6
仙台湾岸	5/3～5/23	7/2～7/14	7/12～7/24	7/31～8/9
西部丘陵	5/7～5/26	7/5～7/16	7/15～7/26	8/3～8/12
山間高冷	5/7～5/27	7/13～7/21	7/23～7/31	8/12～8/19

※出穂期の平年値は過去10か年（平成21～30年）のうち、最も早い年と遅い年を除いた8か年平均

※7月3日までアメダスデータ実測値使用，7月4日以降はアメダス平年値を使用

※対象品種「ひとめぼれ」「ササニシキ」「やまのしずく（山間高冷）」

4 本田管理

移植栽培

(1) 水管理

- 幼穂形成期から減数分裂期にかけて、「日平均気温20℃以下」または「最低気温17℃以下」が数日続く場合は障害不稔が発生する危険性が高くなります。
- 最新の天気予報（週間天気予報，2週間気温予報等）に留意し、**低温が予測される場合には幼穂を保護するためにできる限りの深水管理を実施**しましょう。

※幼穂形成期：水深5～10cm，減数分裂期：水深20cmが望ましい

- 出穂後は、登熟の良化及び根の活力維持のため間断かんがいを実施しましょう。
- 出穂後5～15日の最低気温23℃以上が連続する高温の場合、白未熟粒が多発し、品質の著しい低下を招く危険性があるので、気温より低い用水の掛け流しが有効です。

(2) 追肥

- 葉色は今後低下することが予想されます。ほ場をよく観察して適切な追肥を行い、**穂揃期の葉色維持**に努めましょう。
- だて正夢は葉色が濃い品種です。周辺ほ場に比べ色が濃くなり、追肥を抑えられがちですが、穂揃期の葉色維持による登熟向上に向けて適正な追肥を実施しましょう。
- ほ場により生育が異なるので、幼穂長による生育ステージの確認を必ず行いましょう。
- 基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合または復元田の場合は、倒伏が懸念されるため、原則として追肥は行いませんが、葉色が落ちる場合は、追肥を検討しましょう。

表 生育ステージの目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1～2mm	—	25～20日
減数分裂期	30～120mm	-10～0cm	15～10日

表 追肥の目安

品 種	窒素施用量（成分量/10a）	
	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ 金のいぶき	1.0kg	1.0kg
ササニシキ	—	1.0～1.5kg
つや姫 まなむすめ	2.0kg	—
だて正夢	— （茎数が少ない場合は1kg）	2kg （幼穂形成期に1kg追肥した場合は1kg）

表 幼穂形成期及び減数分裂期の葉色期待値（葉緑素計によるGM値）

	幼穂形成期	減数分裂期
だて正夢	39～43	35～39
ひとめぼれ	38～40	35～37
ササニシキ	34～36	32～34
金のいぶき	33～35	30～32
つや姫	35～37	31～33
まなむすめ	35～37	36～38

(3) 病虫害防除

①いもち病

- ・曇りや雨が多く、日照時間が少ない日が続いており、7月1日から葉いもちの「感染好適条件」が断続的に出現しています。現在病斑が見られなくても、今後現れる恐れがあります。
- ・上位葉での葉いもちの発生は、穂いもちの重要な伝染源になるので、ほ場をよく観察し、発生が確認された場合は直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・特に、窒素過剰により稲が軟弱徒長気味で葉色が濃いほ場は、早期発見に努めましょう。
- ・また、追肥後は、一時的に稲体窒素濃度が高くなり、いもち病に対する抵抗力が弱くなるので発生に注意しましょう。
- ・穂いもちの予防剤は出穂30～5日前に使用する剤が多いので、生育状況をよく観察し、出穂期の予測に基づき適期に散布しましょう。
- ・茎葉散布剤による穂いもち防除は、1回目の防除を出穂直前に、2回目を穂揃期に行い、葉いもちの発生が多く、穂いもちのが多発する恐れがある場合や出穂期間が長引く場合には、3回目を穂揃期の7～10日後に実施しましょう。

【参考】BLASTAM（ブラスタム）による葉いもちの感染好適条件の推定結果

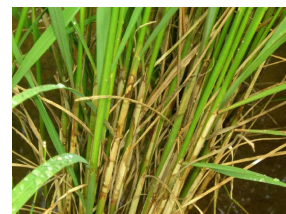
日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	桃生	大衡	鹿島台	東松島	石巻	女川	新川	塩釜	江ノ島	仙台	名取	白石	蔵王	亶理	丸森
7/1	—	○	—	●	—	—	●	—	●	●	—	—	—	○	●	○	—	●	●	—	—	—
7/2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	●	—	—	●
7/3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/4	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/5	○	○	●	●	●	●	—	●	●	●	●	●	△	○	●	△	△	—	—	—	—	—
7/6	○	△	—	—	●	△	—	△	—	●	●	—	—	△	●	○	△	—	—	—	—	●
7/7	△	○	○	●	●	○	●	●	●	●	●	—	○	○	●	○	●	●	○	○	●	●
7/8	—	○	○	●	●	○	●	●	●	●	●	○	○	○	○	△	—	—	—	○	—	—
7/9	—	—	—	—	—	—	●	—	—	●	—	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—	—
7/10	—	—	—	—	—	—	—	—	●	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/11	—	●	—	●	●	●	●	—	●	●	●	●	●	—	●	●	—	—	—	—	●	●
7/12	△	●	—	—	●	△	△	●	△	●	●	—	●	●	●	●	—	—	●	●	—	—
7/13	△	△	△	●	△	●	△	●	△	△	●	—	●	●	●	—	△	—	—	—	△	●
7/14	○	—	●	—	—	—	—	—	△	—	—	—	—	●	△	—	—	—	—	—	—	△
7/15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△	○	△	●
7/16	—	○	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△	—	—	—	—

●	好適条件	葉いもちの大量感染に好適な気象条件（葉面湿潤時間10時間以上、平均気温15～25℃、前5日間の平均気温20～25℃）が出現した日
○	準好適条件1	当日の条件は満たしているが、前5日間の平均気温が条件からはずれている場合
△	準好適条件2	葉面湿潤時間の長さのみ好適条件を満たしている場合
—	好適条件なし	

詳しくは、病虫害防除所のサイトをご覧ください。 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

②紋枯病

- ・高温で降雨日数が多いと株間の湿度が高まり、幼穂形成期頃から発生が目立つようになります。出穂期前からの発病は被害が大きくなるので、発生に注意しましょう。
- ・病害虫防除所による発生予報6号では、**発生量が「やや多」の予報**が発表されています。
- ・前年に発生が多かったほ場では多発のおそれがあります。穂ばらみ期の水面施用剤、出穂期頃の茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・紋枯病の要防除水準（5%以上減収）は、出穂直前（穂ばらみ期）の発病株率で、ひとめぼれ18%、ササニシキ10%以上です。要防除水準に達した場合は、防除を実施しましょう。
- ・病斑は水際の葉鞘に現れるので、茎葉散布剤による防除では、株元に薬剤（液剤、水和剤、粉剤）がよく付着するよう十分な薬量で散布しましょう。



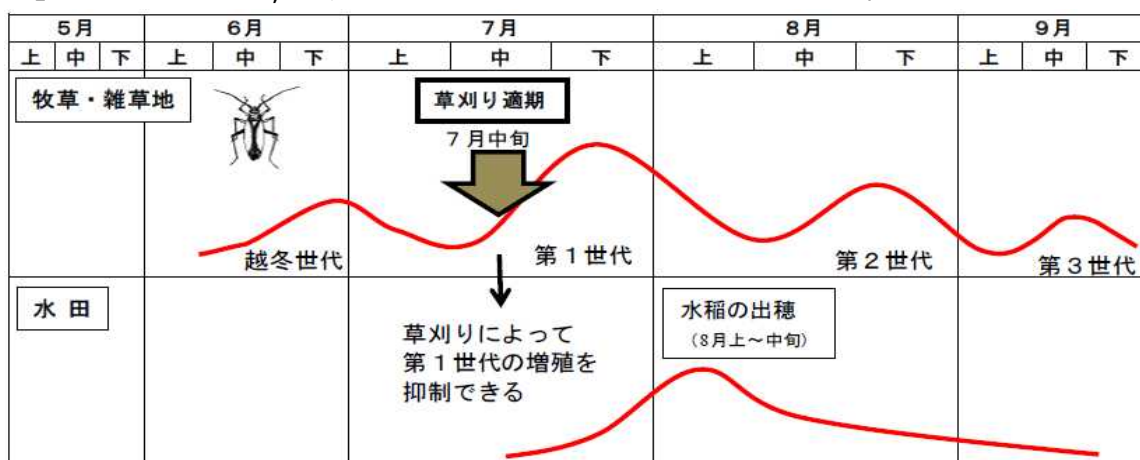
病斑

③稲こうじ病

- ・穂ばらみ期に低温で降雨日数が多い条件下で発生しやすくなります。
- ・ほ場に残った菌核などが伝染源となるため、前年に多発したほ場では注意が必要です。
- ・銅剤は予防効果が高く、出穂20～10日前が散布適期です。（県平均出穂期の予測からすると7月22日頃までの散布となります）

④斑点米カメムシ類

- ・水田畦畔の草刈りは、水稻の出穂前後に行くと水田内にカメムシ類を追い込むことになるため、**水稻が出穂する10日前（平年では7月24日頃）**までに終わらせましょう。また、草刈りの再開は9月に入ってからにしましょう。
- ・薬剤防除は、**穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本**です。2回目の薬剤散布以降も斑点米カメムシ類の発生がみられる場合は、追加防除を実施しましょう。
- ・イヌホタルイが発生した水田で除草できなかった場合は、1回目の薬剤散布を「出穂始から穂揃期」に早めることで、斑点米カメムシ類の密度を低下させ被害を軽減できます。



湛水直播栽培

(1) いもち病

直播栽培は、移植栽培より生育ステージが遅く、全般に葉色が高く推移しやすいことから、葉いもちが発生しやすい傾向があります。ほ場を見回り、発病を確認したら直ちに茎葉散布を行い、発病が見られない場合は葉いもち予防剤を散布しましょう。

(2) イネツトムシ（イチモンジセセリ）

防除適期は、第2世代の若齢幼虫が発生盛期となり7月下旬から8月上旬です。ほ場を見回り、発生が多い場合には防除を実施しましょう。

(3) 斑点米カメムシ類

移植栽培に比べて出穂期が遅れることから、散布適期を把握し実施しましょう。詳細は移植栽培の(2)病害虫防除④斑点米カメムシ類の項目を参考にしてください。

5 東北地方の向こう1か月の天候の見通し（7/16仙台管区气象台発表）

予報のポイント

- 気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の日照時間は東北日本海側で平年並か少なく、東北太平洋側で少ないでしょう。
- 期間の前半は、日照時間の少ない状態が続く所がある見込みです。

■農薬危害防止運動実施中（令和2年6月1日から令和2年8月31日まで）

- ・ラベルに記載されている適用作物，使用時期，使用方法等を十分に確認しましょう。
- ・散布後には農薬の使用履歴を記帳しましょう。
- ・最新の農薬登録情報は，農林水産省消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

次回の稲作情報第8号は，9月上旬の発行となります。